

議会だより

第475回西ノ島町議会 3月定例会一般質問（要約）



保員

東 議

質問 健康ウォーキングで地域の活性化を図ることについて

次の3点について伺う。

質問① 「初夏と秋の健康ウォーキング」のコースの追加について

町民向けの「初夏の健康ウォーキング」を実施しているが、コースのアップダウン等がきついため、親子連れ、高齢者等が参加しにくい状況ではないかと考える。参加層を広げるためにも「親子づれコース」「高齢者向けコース」を併設しても良いと考えられているかが。 「秋の健康ウォーキング」についても、「二般向け」については、距離を長くしてはどうかと考え、上記と同様「高齢者向けコース」を併設しても良いと考えられているかが。

回答① 町長

「初夏の健康ウォーキング」は、「とつて隠岐ツーデーウォーク」と同じコースを歩き、島外からの参加者との交流をメインとしている。「秋の健康ウォーキング」は、これまでも参加者の希望を取り入れながら行っている。

町では、5月と11月の年2回、健康ウォーキングを実施している。

1つ目が「とつて隠岐ツーデーウォーク」と同日開催の「初夏の健康ウォーキング」である。町民が参加しやすい10キロコースを「町内版健康ウォーキング」として、実施している。

例年30人から50人の参加者があり、親子連れでの参加が多くみられるようになってきている。「初夏の健康ウォーキング」は、島外からの参加者との交流を主な目的として「ツーデーウォーク参加者」と同じコースを歩くこととした経緯があるので、ご理解いただきたい。

2つ目の「秋の健康ウォーキング」については、平成17年から開始しており、初

年度は「運動公園から浦郷までの往復」、以降は参加者の希望も取り入れて、「赤尾から鬼舞」、「別府から宇賀」「運動公園から島根鼻」「美田湾一周」など様々なコースとし、ウォーキング終了後は、参加者同士との交流も行っている。

質問② 健康ウォーキング開催の追加について

9月下旬頃に「初秋の健康ウォーキング」あるいは2月下旬頃に「冬の健康ウォーキング」を実施する等、あと1回程度増やすことは可能かどうか伺う。

回答② 町長

熱中症予防、他イベントの開催時期、病氣予防等考慮し、今現在の開催時期、開催回数となっている。

実施時期については、熱中症予防の観点や他のイベント等も考慮して、11月初旬としている。また、2月下旬頃に「冬の健康ウォーキング」との提案だが、冬場は、気温も低く、空気が乾燥しているため風邪ウイルスなどに感染するリスクが高いことや寒い中でウォーキングは、かえって健康を損なう恐れもあるため、集団での実施は適さないのではないかと考えている。

質問③ 各地区での健康ウォーキング策について

個人的にもウォーキングは行われているが、各地区で毎月1回実施してもらい、何らかの形で地区対抗のような形がとれば、結果的に医療費抑制や地区の活性化が図れると考えるかが。 （各地区コースは、地区にまかせるか、「西ノ島町健康づくり推進協議会」にまかせる・その際ウォーキングマップの作成をしてもらう）

回答③ 町長

ウォーキングは競い合うものではなく、マイペースで行うことが大切である。ウォーキングマップは、町民の協力を得ながら、活用していきたい。

ウォーキングは、競い合うものではなく、自分の体調や体力に合わせてマイペースで行うことが大切だと考えている。また、ウォーキングマップについては、コースの募集など町民等の協力を得ながら検討し、活用につなげていくことは大切なことだと思っている。

ウォーキングをはじめ「運動の普及啓発」については、「健康づくり推進協議会」が健康づくりの一環として取り組んでいる事業であるので、協議会のメンバーと検討しながら進めていく。



小島 正春 議員

質問 移動図書館の再開について

「コミュニティ図書館（いかあ屋）」が開館して7ヶ月が経過した。

利用者を地区別ではデータ化していないが、近場の浦郷地区の住民の利用が多く、美田地区から東部地区に行くほど利用者が少ないのではないかと。

より多くの住民に（いかあ屋）を利用してもらうためには、本に親しむ土壌を広げる事が大事と考える。

移動図書館を再開する事で本を読む機会が増え、貸出冊数の増加と共に来館者の増加に繋がると思うが、教育長の見解はいかがか。

回答 教育長

移動図書館については、早急な実施は困難だが、図書館運営協議会を中心に利用者の増加につながる方策を検討していく。

「コミュニティ図書館「いかあ屋」」が開館して以来、2月末までの利用者数は17,000人を超え、会員数も当初、目標としていた1,000人を目前としており、

安定した賑わいを見せている。

年代別では、親子連れや小・中学生の利用が多く、70歳以上の利用者は約1割と低いものとなっている。

また、地区別では、黒木地区の利用が少ない状況で、その要因の一つに「返却が不便」とのご意見もあり、昨年、美田コミュニティセンターと観光協会に返却ボックスを設置したところである。基本計画の中で「高齢者や障がい者など来館が難しい方々へのサービス提供」については、職員体制や需要の把握などで早急な実施が困難な取り組みとして、今後の課題に位置付けている。

移動図書館については、浦郷を除く14の集落を回る頻度や方法、それに要する人手など課題もあり、早急な実施は困難ではあるが、多くの町民に本に親しんでもらう事は図書館本来の目的であるため、今後は図書館運営協議会を中心に、様々な意見を取り入れながら高齢者等の利用に繋がるサービスや催しの企画、また団体貸出など、いろいろな取り組みを試しながら利用者を増やしていきたいと思っっている。



中上 省三 議員

質問 待合所を併設した火葬場の新設移転について

既存の火葬場は、昭和54年から稼働して40年が経過している。

平成13年度に約3,000万円をかけた、建屋の増築、アプローチ、屋上の嵩上げ、ホール内の改装工事を行った。平成20年度から約10年間で1,300万円以上の定期点検を含めた修繕費がかかっており、今後も年間130万円の費用が必要になると考えられる。こうしたことや冬期の道路事情や駐車スペースを考慮すると、もっと広い場所に火葬場と待合所を併設したものを新設移転するべきであると考ええる。

平成31年度の中期財政計画に盛り込むべきであると考えますが町長の考えを伺う。

回答 町長

火葬場新設の必要性については、十分認識している。

今の施設は、今後10年以上は機能できるとの判断を得ているが、突発事故等に対応できるように調査検討を進めていく。

本町の火葬場は、これまでに専門業者による点検等により、修理箇所を早期発見に努め、修繕対応で安定的に稼働してきたところである。

これまでの改修内容としては、火葬炉の改修をはじめ、火葬台車の更新、火葬炉内のセラミックブロック張替等を行っており、火葬業務上は、問題なく稼働しており、業者の点検結果からは、今後10年以上は機能できるとの判断を得ているところである。

しかしながら、冬場の道路事情や駐車場・待合スペースに加え、水道も通っていない等、利用者にとっては不便な点も多く、火葬場新設の必要性については、十分認識しているところである。

現在の火葬場建物は、鉄筋コンクリート造りで、耐用年数は50年となっているので、建設予定時期については、今後使用可能な年限とされる10年がひとつの目安となるが、突発事故等に対応できるように調査検討を進めていきたいと考えている。

火葬場は、施設の性質上、建設候補地の選定が課題となるので、候補地となる地区のご理解とご協力を得ることがまずもって必要となってくる。言うまでもなく、火葬場は住民生活に欠くことのできない施設であるので、生活に支障をきたすことのないよう、地域実情に応じた施設規模、内容等を調査の上、検討を進めていくつもりである。